



ゆすはら町議会だより

四万十源流

令和2年4月20日

第111号

題字 議長 土釜 清



3月 定例会(第351回)

議会3月定例会は、3月6日から3月12日の7日間の会期で開催した。

今定例会では、令和2年度に臨む町の施政方針の説明が行われたほか、議案審議では、令和2年度各会計歳入歳出予算を総務教育厚生常任委員会に付託、産業建設常任委員会との連合審査会とし、10日、11日に集中審議を行った。

一般質問には、西川慶男議員、下元秀俊議員、西川豊正議員、高橋基文議員の4人が町の考え、方向性を問いただした。

議案審議では、令和元年度各会計補正予算、令和2年度各会計当初予算、監査委員の選任、指定金融機関の指定、農業委員会の委員及び農地利用最適化推進員の定数を定める条例の一部改正、町長等の損害賠償責任の一部免責に関する条例の制定など本会議で審議を行い、すべての議案について原案どおり全会一致で可決した。

表紙写真の紹介



榑原学園入学式

行政報告

町長は、令和元年12月定例会以降における諸般の行政について、次の項目の報告をした。

総務課関係

- ・ 新型コロナウイルス感染症について
- ・ 榑原町選挙管理委員会について
- ・ 所得申告調査について
- ・ 消防について（火災出動、搜索出動）

企画財政課関係

- ・ 第7次榑原町総合振興計画策定委員会について
- ・ 第1回榑原町開発振興計画審議会について

環境整備課関係

- ・ 集落活動センター事業について

環境整備課関係

- ・ 木質ペレット認証Aランク取得について
- ・ 環境モデル都市の取り組みについて
- ・ 四国防災トップセミナーについて

産業振興課関係

- ・ 榑原町有害鳥獣被害対策協議会勉強会について
- ・ ゆすはら産業担い手育成塾について
- ・ 未来の森林づくりにむけての意見交換会について

生涯学習課関係

- ・ 体育始めについて
- ・ 成人式について
- ・ 観光甲子園2019について
- ・ 第68回高知県市町村対抗駅伝競走について
- ・ 四国コンテンツ映像フェスタについて
- ・ 高知県中学校冬季大会剣道の部について
- ・ 第38回全国高等学校アーチェリー選抜大会出場について

〈目次〉

行政報告
2

施政方針
3

3月定例会
での決定
4～6

予算連合審査
7～10

一般質問
11～14

委員会報告
15



施政方針を述べる吉田町長

令和2年度に臨む施政方針については「広報ゆすはら」に、詳しく掲載されており、第7次梶原町総合振興計画及び第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略により、梶原町が令和2年度に取り組む内容について6つの目指す社会について掲載いたします。

令和2年度に臨む施政方針

第7次梶原町総合振興計画及び 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略 により、令和2年度に取り組む 6つの目指す社会

①梶原ならではの保健・医療・福祉・介護が充実した社会

梶原ならではの切れ目ない支援が実施していけるよう、地域包括ケアシステムの充実を図るとともに、何事にも前向きに考え、「町民のみなさんがそれぞれの生きがいと幸福感を感じ笑顔のあふれる町づくり」を目指していきます。

- ・地域福祉の充実・地域医療体制の充実・高齢者福祉の充実
- ・健康づくり・命の道の整備促進・生活交通手段の確保

②自信あふれる梶原人を育てる教育の確立した社会

学校、家庭、地域、行政が役割分担を明確にしながら、基礎・基本を大切に、安全で安心した生活のできる環境づくりと地域ぐるみの教育を基本とし推進してまいります。

- ・保幼小中高の一貫教育の推進・スポーツの祭典

③次世代へより良い環境を引継ぐ社会

- ・環境モデル都市の取り組み推進・災害を未然に防ぐ整備促進

④魅力ある産業の創出と地域を支える産業が発展した社会

町内の各種企業・団体との連携はもとより、「ゆすはら産業担い手育成塾」ともしっかり連携し、人材育成をはじめ、生産から、加工、販売までのそれぞれの生きる仕組みづくりの確立に向かって積極的に支援してまいります。また、国内外から多くの視察や観光のお客様にお越しいただく町となってきておりますが、こうしたお客様をお迎えする仕組みが充分とは言えない状況でもあります。そうしたことを踏まえ、昨年来、観光協会の設置について検討してきたところでございますが、観光という視点をもっと広く大きく芸術・文化等様々な面を含めた交流という視点へ舵をきり心豊かな暮らしを実現することに取り組んでまいります。

- ・付加価値の高い農・畜・林等一次産業の振興・商工観光産業の振興

⑤助け合い支え合いながら暮らす社会

- ・自立する集落活動センター・地域防災意識の向上

⑥世界の人々とつながり支持され選ばれる社会

梶原を訪れる外国人観光客の姿を見る機会も多くなっております。そのことにより他国の文化の良さを享受できるとともに、本町の良さを見直すことのできるきっかけにもなっております。しかし、たくさんの魅力があるのに対し、それをアピールすることが不十分であることも事実であります。今を生きる本町の独自性を大切にすることで、国際社会の中でも光輝くことのできる課題解決のフロンティアとして、世界とも対等で有意義な関係を目指してまいります。

議案審議の概要

補正予算

【一般会計補正予算（第4号）】

人件費及び賃金、また、各事業の確定及び決算見込みによる調整等で、歳入歳出にそれぞれ2億2千245万2千円を減額し、その総額を69億8千761万2千円としようとするもの。

可決（全員賛成）

○質疑

高橋基文

問 補正予算の中に新型コロナウイルス対策に関する予算が出ていない。予備費等でしっかり取り組むべき。

答

町長

予備費が600万円ほど残っている。必要であれば使うことに躊躇はない。マスク不足については、町民にマスクを配れる状況ではない。

○質疑

下元秀俊

問 新型コロナウイルスの影響について、給食や寮の食事も休止になっているが、危機管理として負担軽減、事業者への対応を考えているか。

答

町長

今後感染が確認された場合などにどういった対策をしていくのかしっかりと検討していきたい。

3月定例会に提案され審議した主な議案についての概要（質疑は抜粋）

【風ぐるま事業特別会計補正予算（第2号）】

売電収入見込みにより2千55万5千円、その影響により基金積立金1千956万6千円、委託料1千738万円を減額し、その総額を3千733万8千円としようとするもの。

可決（全員賛成）

○質疑

高橋基文

問 設計変更による減額だが、当初の計画からのどのくらい工期がずれ込んでくるのか。また、契約相手が2社になる可能性があるが、費用がどのくらい変わってくるのか。

答

町長

日立製作所の風車が撤退をし、エネルギーという会社の風車を導入するしか選択肢がなくなっている。風車を運ぶ際に問題があり、計画をあきらめざるを得ない事態を招くようなことになるかもしれないが鋭意努力をしている。

【介護保険事業特別会計補正予算（第3号）】

決算見込みによる減額等により3千997万5千円を減額し、その総額を5億3千239万5千円としようとするもの。

可決（全員賛成）

○質疑

西川慶男

問 認知症等について、相談もできず一人抱え込んで悩んでいる方々がいるがその対応は。

答

保健福祉支援センター長

現在、認知症等様々な問題を抱えられている方については掌握し保健士が対応している。民生委員や社協の地域コーディネータも相談窓口として対応していたらいい。また、梶原町で住みよい暮らしが続けられるよう支援をしていきたいと考えている。

条例

【機構改革に伴う関係条例の整理について】

令和2年度からの機構改革に伴う職名の変更に伴い関係する条例の改正を行うもの。

可決（全員賛成）

○質疑

下元秀俊

問 ひとつの事業に従事する期間が長すぎる。組織の刷新を意識してやるべきだと思うが。

答

町長

一定期間の中でマンネリ化のおこらないよう、不正の温床にならないよう配慮しながら組織の刷新を含めた柔軟な人事に取り組んでいく。

その他

【工事請負契約変更について】

令和元年度学校施設環境改善交付金梶原学園共同調理場建築工事について、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決を求めるもの。

- ・変更後の完成期限 令和2年8月31日
- ・増減日数 153日増
- ・契約の相手方 株式会社四万川総合建設

可決（全員賛成）

【監査委員の選任に付き同意を求めることについて】

地方自治法第196条第1項の規定により議会の同意をお願いしようとするもの。

同意（全員賛成）

住所 梶原町永野
氏名 中越拓平
期間 令和2年4月1日～令和6年3月31日



中越拓平 氏

議案一覧と議員賛否状況

（賛成○、反対×、議長は裁決に加わらない）

議案番号	議案名	審議結果	1	2	3	4	5	6	7	8
			森田呂弥	西川豊正	下元秀俊	高橋基文	土釜清	市川岩亀	中越計清	西川慶男
第1号	令和元年度一般会計補正予算（第4号） 総額を69億8,761万2千円にしようとするもの	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第2号	令和元年度松原診療所特別会計補正予算（第2号） 総額を1,885万4千円にしようとするもの	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第3号	令和元年度四万川診療所特別会計補正予算（第1号） 総額を1,303万5千円にしようとするもの	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第4号	令和元年度国民健康保険特別会計補正予算（第3号） 総額を5億6,621万2千円にしようとするもの	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第5号	令和元年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号） 総額を6,562万円にしようとするもの	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第6号	令和元年度介護保険事業特別会計補正予算（第3号） 総額を5億3,239万5千円にしようとするもの	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第7号	令和元年度簡易水道事業特別会計補正予算（第3号） 総額を1億3,243万7千円にしようとするもの	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第8号	令和元年度農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号） 総額を2,841万4千円にしようとするもの	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第9号	令和元年度下水道事業特別会計補正予算（第3号） 総額を7,971万9千円にしようとするもの	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第10号	令和元年度風ぐるま事業特別会計補正予算（第2号） 総額を3,733万8千円にしようとするもの	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第11号	令和元年度病院事業会計補正予算（第2号） 収益的収入及び支出の総額をそれぞれ、4億9,382万6千円、5億9,606万5千円にしようとするもの	可決	○	○	○	○	-	○	○	○

議案一覧と議員賛否状況 (賛成○、反対×、議長は裁決に加わらない)

議案番号	議案名	審議結果	1	2	3	4	5	6	7	8
			森田呂弥	西川豊正	下元秀俊	高橋基文	土釜清	市川岩亀	中越計清	西川慶男
第12号	令和元年度給与等集中管理特別会計補正予算(第2号) 総額を9億7,755万8千円にしようとするもの	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第13号 第24号	令和2年度各会計予算 審査概要については7~10ページを参照	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第25号	町長等の損害賠償責任の一部免責に関する条例の 制定について	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第26号	地方自治法等の一部を改正する法律の施行に伴う 関係条例の整理について	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第27号	機構改革に伴う関係条例の整理について	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第28号	職員のサービスの宣誓に関する条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第29号	梶原町農業委員会の委員及び農地利用最適化推進 委員の定数を定める条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第30号	梶原町行政不服審査法施行条例の廃止について	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第31号	行政不服審査法第81条第1項の期間の事務の委託に ついて	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第32号	高知縣市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の 減少及び高知縣市町村総合事務組合規約の変更について	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第33号	高知縣市町村総合事務組合から芸東衛生組合が脱退 することに伴う財産処分について	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第34号	高知縣市町村総合事務組合から高幡西部特別養護老人 ホーム組合が脱退することに伴う財産処分について	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第35号	梶原町指定金融機関の指定について	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第36号	梶原町過疎地域自立促進計画の変更について	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第37号	梶原町松原区辺地総合整備計画の策定について	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第38号	梶原町四万川区辺地総合整備計画の変更について	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第39号	梶原町西区1辺地総合整備計画の変更について	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第40号	工事請負契約変更について(令和元年度 学校施設 環境改善交付金 梶原学園共同調理場建築工事)	可決	○	○	○	○	-	○	○	○
第41号	監査委員の選任に付き同意を求めることについて	同意	○	○	○	○	-	○	○	○

3月定例会での決定

令和2年度予算を徹底審査

新年度予算総額 84億6,100万円を可決

令和2年度の一般会計をはじめとする各会計当初予算の審査は、総務教育厚生常任委員会に付託され、付託を受けた総務教育厚生常任委員会は、産業建設常任委員会に連合審査を要請し、3月10日、11日に執行部幹部職員の出席を求め審査を行い、一般会計予算、病院事業会計予算及び特別会計予算10件の全予算については、いずれも全会一致をもって原案のとおり可決すべきものと決定した旨の審査報告書を、12日に議長に提出した。

連合審査での 主な質疑・答弁

予算連合審査

【総務費(コシゴト)】

問 下元 秀俊

高齢者等の移動手段についてフットワーク協議会でのような検討をしているのか。公共交通機関、民間事業者等で協議をしながら考えていくべきではないか。

答 梶原町全体を考え、最も最適化した交通の在り方を考えてほしいとお願している。それぞれの職場や業も大切に考えていきたい。

問 高橋 基文

光ネットについて、高齢の世帯が増え、地域の回覧板がなかなか回らない。ネットワークの中で情報配信の取り組みはできないか。

答 高齢化の中で情報をどう伝えていくか、厳しい財源の中で何かいいものがないか探っていきたい。

問 西川 慶男

IPを設置し10年近くなるが、維持管理計画は。また、個別の家の機器のメンテナンスはどうなっているか。

答 維持管理計画については業者と協議をしながら適正に進めており、機器のメンテナンス等についても不具合が生じたら迅速に修理を依頼し対応している。

【老人福祉費について】

問 西川 慶男

各福祉施設がある中で、施設に入りたいが入れないという相談がある。現状で待機者の人数はどのようなになっているのか。また、喫緊で入所しなければならない状況の方には町外施設を紹介して入所してもらうような働きかけをし、町内が空けば帰ってくるという取り組みをすべきだ。

答 ふじの家は21人、ゆるりは12人の待機者となっている。

他市町村の施設への入所の紹介は、今までも取り組んできたが、なおこの町で住み続けられるような施設の在り方を担当とともに考えていきたい。

【衛生費について】

高橋基文

問 土づくりの施設について、今後どのようにしていくのか。

答 し尿処理について取り組んできたが、昨年の火災によって施設が使用できなくなり、抜本的な改善を図らなければならぬ。現在、近隣町村にお願いをし、高幡東部清掃組合への加入について打診をしているところである。

【農林水産業費について】

下元秀俊

問 ワイン作りのスキームが明確ではない。しっかりとした組織が必要ではないか。町民にPRがなく、町民が参加できるような体制で進めるべきだ。

答 継続的なイベントの中で徐々に進んでいるが町内向けの発信になっていない。町民の方に来ていただいて住吉に植えるイベントのような形を計画している。ご当地ワインとして町民の皆様にも浸透させていきたい。

西川慶男

問 町産材利用促進事業補助金について、次のステップに行かなければ梶原町の林業は新しい突破口を開いての改革はできないか。それについて明確な答え

を求める。

答 人材確保のための組織の立ち上げについて、梶原フォレストスター担い手センター（仮称）を考えているが、4月に国の補助制度の詳細が固まりしだい検討し、取り組んでいく。

高橋基文

問 簡易雨除けハウス資材補助金について、1千万円の限度額がある補助金では厳しく、資材高騰に合わせた限度額に改定すべきではないか。

答 農家の負担軽減をしながら県の方にはしっかりと働きかけていきたい。

【畜産振興について】

下元秀俊

問 新型コロナウイルスの影響で消費が落ち込み、枝肉価格が下がっている。畜産公社の経営、子牛の価格にも影響してくると思われる。畜産農家の経営にも大きく響いて今後の支援が必要である。

答 畜産公社を核として今後検討が必要だが、様々な問題を含めて取り組んでいきたい。ウイルスの影響でいろいろな影響を受けており、畜産公社の役割として畜産農家の支援というのでも非



森林組合の木材集積場

【商工費について】

下元秀俊

問 看板製作設置業務委託料について、タブレット等でQRコードを読むとホームページ等につながるといいう仕組みもあるので、インバウンドも含めて研究する必要があるのではないか。

答 QRコードについては検討していきたい。

下元秀俊

問 ゆずはらグルメまつり補助金について、今後のイベントをどのように考えているのか。

答 グルメ祭りに関しては、多額の経費が掛かる一方、梶原町の新たな産業作りに結び付くようなことにはなっておらず、町民の皆さんが参加し喜んでいただく祭りにはなっていないことともあり休止をしてみようということになった。一方で産業祭に100万円の交付金を計上しており、農業や林業に触れる機会にしていきたい。



川の女王 アメゴ

問 中越計清

川の女王と言われるあめごは、雲の上のホテル、民宿等で大変お客様に喜ばれている。また、河川への放流により釣り人にも楽しまれている。町内で唯一のあめご養殖について今後の支援等、どのように考えているのか。

答 坪野田の旧西小学校奥の谷は、水量もあり良いのではないかと提案をいただいているので水量調査を行っている。結果はまだであるが、養殖が可能ならぜひ取り組んでいきたいと考えている。

【土木費について】

問 下元秀俊

維持管理チームの就業について様々な声があるが、良いところを伸ばし、改めるべきを改める指導を願う。また、移動時の交通費や機械の持ち出しをなくし、負担を軽減すべきではないか。

答 就業時間については8時から17時で定めている。次年度以降はタイムカードを採用する方針で検討している。定員は15人で募集していたが足りておらず、追加募集をかける。県から委託を受けている面積は15人で達成できており、作業量に対する人数は足りていないと考える。この事業は県から受託を受け、町から梶原道路維持管理チームに委託しており、雇い主は建設協会長になっている。交通費や燃料費、機械器具についても建設協会と検討していく。

問 中越計清

町道の維持管理は十分なのか。路盤の見廻り、舗装を見直す等地域の現状を把握すべきである。また、小規模の崩土や側溝の土砂上げ等に活用できる小型のバックホウの購入を検討すべきではないか。

答 町道に関しては、定期的なパトロールは実施できていないが、町として対

応実施していかなければならないと思っているので次年度以降取り組んでいく。また、危険箇所については、環境整備課に相談いただければ現地確認し対応していく。小規模崩土については、作業班で土砂除去ができるのかの判断をしており、作業班が困難な場合は業者に依頼し除去しているので重機を構えるのは難しいと考える。

【教育費について】

問 高橋基文

未来の教室事業委託料は非常に高額であるので詳しい内訳の説明を願う。

答 他のアドバイザーは個人で受けていただいているが、安藤さんに関してはリクルートから派遣という形で委託しており、会社の単価での契約となっている。

令和2年度梶原町各会計当初予算の状況

(単位：千円)

会計別	令和2年度	令和元年度	対前年度比
一般会計	6,855,000	6,615,000	240,000
松原診療所特別会計	20,100	18,900	1,200
四万川診療所特別会計	13,500	14,000	▲500
国民健康保険特別会計	555,000	545,000	10,000
後期高齢者医療特別会計	68,200	66,000	2,200
介護保険事業特別会計	562,000	554,000	8,000
簡易水道事業特別会計	126,600	139,700	▲13,100
農業集落排水事業特別会計	35,900	30,400	5,500
下水道事業特別会計	96,100	77,700	18,400
風ぐるま事業特別会計	81,700	72,600	9,100
病院事業会計	666,916	643,909	23,007
給与等集中管理特別会計	1,017,000	1,011,000	6,000
単純合計	10,098,016	9,788,209	309,807
各会計間重複控除額	1,637,010	1,563,694	73,316
差引純計額	8,461,006	8,194,515	266,491

【病院会計について】

問 新型コロナウイルス感染者が出た場合の対応は。 高橋基文

答

新型コロナウイルス感染症であると確定すれば、梶原町であれば高知医療センターに移っていたらいい治療となるが、今後医療センターが満床になれば他の医療機関も受け入れるようになると思うが、その頃には恐らく軽症者の対応はできなくなっていると思われる。そうなるかと軽症者は、自宅療養または、直近の医療機関でのフォローとなる可能性はある。梶原病院の入院患者は高齢者が多く、軽症者の受け入れを悩んでおり、今後考えていかなければならないと思っている。動線の分離、時間の分離ができれば



変わらぬ医療を提供する梶原病院

対応がしやすい。いろいろなことを組み合わせながらやっていかなければと思っている。

梶原病院

11日の連合審査には、梶原病院の池田院長の出席を要求し、病院の現状などについての説明を求めた。

池田院長からは、梶原病院が目指す地域医療について、良質なプライマリケアの提供、救急医療の確保、保健予防活動の3つの項目の概要説明があった。また、それら3つの項目を達成していくための具体的に病院としてやっていくべき役割として、地域包括ケアシステムの充実、15次救急・災害医療への対応、保健・介護・福祉との協働、行政との連携、住民との絆、地域医療の教育の場の6つの話があった。

最後に、予算審査には直接関係はないが、全世界で流行している、新型コロナウイルス感染症についての話があった。

【梶原病院】

梶原病院の医療体制、外来、入院患者数の推移等の説明があり、外来患者数は、過去6年間で徐々に減少し、令和元年度においては2万7千人余りとなっていること、入院患者数については、看護師不足により制限をかけてい

た昨年度と比べると、今年度についてはある一定看護師が確保できたことにより入院患者数は増加したことの報告があった。

令和2年度の医師体制については、今年度と同様に内科常勤医が5人となる。

【四万川・松原診療所】

四万川診療所、松原診療所ともに患

者数は減少の一途をたどり、今年度は両診療所とも1日外来患者数が10人を下回る見込みであり、特に松原診療所の患者数の減少が目立っている。昨年の3月議会において、四万川診療所が1日外来患者数が10人を割り込んでいたが、松原診療所においても予想より早く患者数が落ち込み、四万川診療所と同程度となった。

閉会中の所管事務調査事項

各委員会は、6月定例会までの閉会中に、次の事項を調査します。

- 議会運営委員会
 - ・6月定例会の運営について
- 総務教育厚生常任委員会
 - ・教育振興について
- 産業建設常任委員会
 - ・産業振興について
- 議会広報編集委員会
 - ・議会広報の発行について

寄付のお礼

この度、次の方から「議会だより 四万十源流」に対し寄付をいただきました。紙面をもってお礼とご報告を申し上げます。

◇愛知県名古屋市 加藤 朝弘 様



西川慶男 議員

問 森林資源の活用や林業担い手の育成に取り組め

しっかり検討し取り組む 答 町長



Photo by Taisuke Tsurufi

◎新たに新設される「森林の文化創造推進課」が果たすべき役割、将来へのビジョンは。

答 町長

これまで産業の一翼を担う部門として産業振興課に林政部門を置き森づくりに取り組んできた。しかしながら、昨今の社会情勢の中における森の価値意識の変化や、本町における持続可能で豊かな森づくりを進めていくためには、産業としての森づくりに加えて、文化としての森、豊かな環境を形成する森、水を育む森癒しを与える森、生物を育む森へと、広域

的かつ重点的に取り組んでいくことが必要であると考へ、本町の目指す地域社会づくりを進めていくため、このたび、森林の文化創造推進課を設置することとした。

◎森林環境譲与税をどのような用途に活用していくのか。

答

町長

森林環境譲与税は、森林整備に関する施策、森林整備を担うべき人材の育成及び確保、森の有する公益的機能に関する普及啓発、木材の利用の促進、その他、森の整備の促進に関する施策

に充てるというふうにされている。

森の施業を担っていたり、森の施業を効率的かつ効果的に行っていくための団地化、そして、森の文化を創造していくための取組を早期に取り組むため、その財源として活用していきたいと考えている。よりよい施業を行い、そして森がよくなり、所有者の利益に結びつくことを目指していきたいと考えている。

◎林業経営の今後について、素材生産の増加、直営での労務班の立ち上げ、流通販路の拡大、木材ストックヤードの設置等も検討すべきではないか。

答

町長

流通販路の拡大、木材ストックヤードの設置に関しては、森林資源の有効な活用を考へていく上で検討すべき課題であると考へている。

これまで、お話しとして何度か伺ってきたこともあるが、しっかりと

た計画をお互いに考へ合いながら進めていくことが必要ではないかと感じている。また、体制整備に取組ながら、それぞれの分野を意識した流通体制の整備拡大に向けて検討を重ねていきたいと考えている。

◎町内の分収造林は当初契約時から相当期間が経過し、契約者の高齢化等、

答

町長

令和2年度中に分収造林契約地をどのようにしていくかの方向性をしっかりとお示しできるようにしていきたいと考えている。

保育管理もままならない状況となっている。町として分収権を買い取るとか支援策はないのか。



森の幼稚園

問 新型コロナウイルスから町民を守れ

できる対応は全てやる 答 町長



下元 秀俊 議員

◎新型コロナウイルスの感染が広がっている。どのような対応をとっているのか。

① 栲原病院での院内感染防止策について。

② ことも園や、臨時休校をしている学園や高校の子どもたちの状況及び今後の対応について。

③ 経済活動について、コロナウイルスにより経済への影響の予想されるがどのような対策を考えているか。

答

町長

2月28日に栲原町新型コロナウイルス感染対策本部を設置し対応している。栲原病院から「新型コロナウイルス感染症市民向け感染予防ハンドブック」を全戸に配布し、予防に取り組んでいる。

経済への影響に関しては商工会と状況の確認をしている。雇用、収入の減少、経済活動の停滞に、危機感を持っている。商工会や国、県の情報もいただきながらできる対応をしつかりと取っていき

たい。

答

保健福祉支援センター長

職員には手洗い、うがい“マスク着用”、咳エチケット“を順守するとともに、出勤前に体温測定をし、発熱等の症状があれば出勤しないことを徹底している。面会や訪問介護、外部からの感染防止についても、体温測定や手指消毒等徹底している。

答

病院事務長

入院患者への面会制限の対策を取り、病室は換気扇を回し必要に応じて窓を開けている。外来患者には、薬を3か月分処方する等、出入りしないですむよう対応をしている。

答

生涯学習課長

3月4日から3月23日まで栲原学園を休業すると決定した。ゆすはら子ども園については感染予防に留意したうえで通常通り開園することとし、留守番させることが困難な家庭の児童について、放課後子供教室を開所し対応している。学期途中での学習面での対応に関しては、家庭学習を効果的に行えるよう学習課題を準備する等対応している。また、5年生以上の生徒にはスタディサプリのIDを配布した。

答

産業振興課長

観光面の影響が出ている。今後様々な業種に影響してくるのではと懸念している。今後の状況をしっかりと受け止めながら対応していきたい。

◎新たな事業所の創業を掲げているが、今後の考え方、構想について問う。

答

町長

栲原町の将来のかけた事業として全力で取り組んでいきたい。現在事業計画、モデルケース等議論をすすめている。若い世代の方たちが帰ってきたいと思える職場を作りた。栲原高校の卒業生に日本食研への就職を一つの選択肢として考えてもらえるように呼びかけもしていただいている。日本食研には人材育成支援等のソフト面での支援をいただき、進めていきたい。

答

教育長

現在の栲原町の学資貸与条例は他の市町村と比べると手厚く、独自性を持ったものとなっている。保護者の住所が町外の方については適用にならないと定められている。

答

町長

大蔵谷に生涯学習交流センターという、約60人の高校生や移住の方を受け入れる魅力的な施設を建設することになっている。栲原高校がこの町で存続していけるよう精一杯の支援をしていく。人材育成ということでは本当に大切なことだから検討していく。

聞き。教育長、町長の考えを



西川豊正 議員

問 町民の声や想いを届けよ

要望に応えられるよう取り組む 答 町長

◎町の住宅施設建物管理状況を問う

入居住民の安心・安全、快適な住まいを確保するには、住まいの点検を定期的に実施し、予防的に修繕を行うことが必要であると考える。この事が地味であるが家の寿命を延ばし大がかりな修繕費用を減らす、結局は効率的な行政の執行ということになる。

現在どのような管理体制がしかれているのか。また、入居者が各区、集落に本戸、あるいは協力戸として加入され地域の活動に参画されているのか。敷地内外の状況や、建物状況、特に空き家の室内管理不備が見受けられる。各地域での管理人を考えてみてはどうか。

答

町長

入居者が退去された後確認し必要な補修や修繕を行い、次の入居者の募集を行っている。入居者が決まらず締め切った状態での長期間入居者待ちの物件もある。適正な管理について集落活動

センターやシルバー人材センター等の力を借りながら保全方法を検討したい。

また、入居者が自治組織を結成し取り組む事が望ましい。今後ともあきらめず呼びかけてまいります。

◎町内の空き家有効利用について

町長が移住定住はしっかりと進めていくが、Uターンとの促進を進めて行きたいと答弁された。

町外で働き、勤めを終わ退職された方々が数多くいる。ふる里梶原に家や建物、田畑もあるが、建物が古く改修費が高額で資金不足、水周り等が不便で帰れない要因である。梶原に帰ってもらえる支援施策を考えてみてはどうか。

人口減少の歯止めとなり、若者や未来の子供、孫達が成長し梶原を背負って頂ける様な未来の梶原をめざして頂きたいが町長の考えを問う。

答

町長

今は空き家改修事業が国庫補助事業、あるいは県補助事業として取り組んだが、Iターンで来られる方やUターンで帰ってこられる方それぞれの背景が違っているので、しっかりと国や県に要望しながらぜひ事業化してきてほしい。

◎病院について

総合病院としての機能を充実してほしい。いい話もあればそうでもない話も沢山ある。患者に寄り添うお医者さんであってほしい。関係機関との情報を保有し尊い命を守ってほしい。特に子育てのうえで耳鼻咽喉科の医師もいれば心強いとの声があるが検討してみたい。

答

町長

病院を核として保健・福祉・医療の充実した社会づくりを目指して、自治医大の研修拠点病院として評価いただき、へき地医療協議会に

参加して、厳しい医師不足が呼ばれる中でも医師の確保をいただいているところである。

専門医師を増やすことは困難な部分である。救急対応のできる何でも気軽に相談のできるかかりつけ医として、町民の皆さんに愛され信頼される病院を目指し取り組んでいく。

◎中山間地域直接支払いについて

中山間地域直接支払制度、この制度を利用して、水田の借受をし無償でお米を作っていたいただいており農地保全に活躍されている方々が各地にみられる。

この度、制度変更により、支払制度未加入の耕作地が多くなる事が懸念される。よって制度を利用した借受耕作ができず、有料となりうる可能性が十分あり、お金を出してまでその声もあり、有休水田の増大が懸念される。有効な基金制度と農地保全の対策を問う。

答

産業振興課長

中山間直接支払制度は、5期目スタートとなり農地法において耕作者に国庫金のお金を支払うということが厳格化される。

中山間地域の農地保全管理、これには耕作だけでなく相続や担い手の集約が必要となってくる。農業委員の強化、事務局の強化も行いながら、しっかりと農地保全に向けて支援して行きたいと考えている。

問 どうする太郎川公園



高橋基文 議員

色々な思いをかみ切って 太郎川公園を再生していく

答 町長

◎太郎川公園の再生計画
を実行しなかったのはな
ぜか。

答

町長

隈研吾氏の木造建
築第1号であり、壊すの
に迷いがあった。図書館
と複合福祉施設を優先し
ていく中で首長が代わ
り、様々な思いがあるか
らこそ踏み切ることが難
しかった。

どの様な考え方でつく
るのか。どの部署が担当
するのか。

答

町長

隈研吾氏に基本設
計を委託していた案をも
とに令和2年度に施設の
規模、施設運営の方法や
方向性、また道の駅の運
営形態等早期に協議し、
実施設計を補正予算でお
願いたいと考えてい
る。どこの部署がという



KENGO KUMA MUSEUM
yusuhara kochi, japan
隈研吾の小さなミュージアム

オープン予定のミュージアム

ことは執行権の問題で協
議し、安心して見守って
いただけるような体制に
していきたい。

◎一歩進んだ移住定住へ

定住に伴う宅地造成が
必要な次の段階に来てい
る。あくまでも仮説だが
飯母の山の切り取りのよ
うな計画があるならば検
討すべき。

答

町長

極端なことではな
く、梶原町の持つ風土を
壊さない中で取り組めな
いものかと考える。

◎隈研吾氏との踏み込ん
だ関係作りの提言

梶原高校に林業科を設
置する働きかけをとって
みてはどうか。林業大学
との連携教育を図り、実
践の場の提供と担い手の
確保とあいまった魅力づ
くりができないか。生涯
学習交流センターの横
に、地元建設業者、林業
組合の合同拠点、シェア
オフィスを隈研吾梶原事
務所として作ってみては

どうか。

答

町長

現実に可能かどう
かしつかり検討してい
きたい。



雲の上のホテルとミュージアム外観



農家・畜産の手本となるよう 取り組み

産業建設常任委員長 高橋基文



畜舎を視察する委員

調査の目的

一般社団法人津野山畜産公社は、県域のJA合併方針により地域の畜産業の維持発展を目指し、平成29年度から公社が事業を引き継ぎ、公社の組織体制強化と地域の雇用を守ることを目的とし、本格稼働を開始している。当初の目標である経営

状況及び農業経営における「複合経営」の主軸となるべき役割などが適正に運営されているかなど、多岐にわたり検証し、産業浮揚拡大の可能性を模索することを目的とする。

調査の内容

一般社団法人津野山畜産公社にて聞き取り調査

並びに施設及び畜舎の視察調査を行った。経営部分では、平成30年度末集計、自家産牛53頭、販売92頭、導入132頭、死亡牛4頭、年度末369頭、令和元年末予測、自家産牛151頭、販売71頭、導入39頭、死亡牛6頭、年度末予測482頭となっており、順調に頭数は推移している。一方、販売金額においては当初計画より大幅に少なく、令和元年度予測では計画差△5千万円ほどとなっている。これは畜舎の建築が初年度に大幅に遅れたものであり、肥育牛導入遅れ（50頭）が主な原因として挙げられるものであるが、今後の努力により改善の目途が立っており問題は無いものと思われた。

職員定数においては、事務職1人、飼育員7人体制により実質一畜舎1人体制により3〜4人で運営していた。働き方改革などによる勤務状況からみれば、できるところはオート化するか、広範囲の畜舎環境を考慮するならば、人員増による経営計画の見直しが今後必要になって来るものと推察される。

病気及び事故防止策による畜舎の管理などを実際に場長に聞いてみたところ、現在の3〜4人体制から最低でも5〜6人体制ほどは今のままでは必要ではないかとの見解であった。

まとめ

畜舎の環境及び経営内容は、計画に沿って推移しているものと現段階では考えるが、今後は当初の目的の一つである農家の複合経営の中心として推奨される事業であり、畜産業としての可能性もこの経営にかかっている

る大きな役割を担っているものと考えられる。よって今後は、健全な経営を目指した運営を維持する必要性から、責任者などが管理に集中できる環境づくりと、営業という観点も視野に入れた環境も必須努力として求められてくると考える。

- 人員体制の見直しと、オートメーションシステム化、加工販売にも視野を広げた研究努力を求め、一次産業のけん引成功事例として榑原方式とし、農家、畜産の手本となるよう町としても重点施策として取り組むことを求め報告とする。
- 構成委員
副委員長 下元秀俊
委員 西川豊正
委員 市川岩亀
委員 中越計清

心のふれあい広場

あいの里の夫婦うどん



♪俺は河原の枯れすすき同じお前も枯れすすき

哀愁漂う「船頭小唄」の曲が流れ、舞台の袖から櫓を漕ぐ船頭とその女房らしき人が舞台の中央へと進み、仲睦まじさ息の合った絶妙な表現で踊る格好が会場を笑いの渦に誘い込む敬老会松原会場での一場面。このお二人、田辺良一・美枝さんご夫婦です。

ラオケクラブ所属の女性トップ歌手です。ご主人の良一さんは料理名人。松原地区で祝いの宴席を盛り上げるのに欠かせないのが宴会場の中央を華やかに彩る鯉の活け造りです。特に四万十川源流の清流で育った80cmを超える大鯉の芸術的とも言える見事な活け造りを盛り付けることの出来るのは良一さんの他にいないでしょう。今日まで幾多の宴席を彩ってきたか計り知れない程で



田辺さんご夫妻

すが、ただ残念なのは近年、少子高齢化社会が進み、その名人技を披露できる祝いの宴席がなくなってきたことです。こうした疲弊し閉塞感を抱える中山間地域の活性化を目指した尾崎県政下、松原地区にも集落活動センター設置の運びとなり、その運営について推進協議会を立ち上げ協議を重ねる中、まずこの地域に

現在の思いに理解いただき快くお引き受けされ、開業以来、うどんをメイン料理とし、定食、

の食堂でした。とは言っても食堂経営ともなると法的な制約もあり、誰でもが営業をできるものではない。そこで白羽の矢が当たったのがこのご夫婦。美枝さんは福祉施設の厨房でのお勤めの経験があり、免許・資格の取得者。良一さんは料理名人、これ以上ない条件の整ったお二人に願います。

今のところ利益を得るには至っていない様子ですが、町道佐渡鷹取間のトンネルも間もなく開通、国道439号改良等道路網整備が進めば、車や人の通行量も増し、多くの人がが食堂利用されるものと期待しております。芸達者なお二人、今でも各方面から舞台出演の依頼があるようですが、多忙ゆえ丁寧にご辞退申し上げているとのこと。お客さんが増えれば一層多忙となり、枯れすすきどころではありません。しっかりとしたコシが持ち味の夫婦うどん、味なお二人に拍手喝采。

あとがき

もう誰もが感じている事ではないだろうか。ここ数年の間に次々と起こる災害、そして今も脅威を振るうコロナウイルス。右往左往する人類は、まるで試されているようにも見えますが間違いなく今の社会状況は修正していくことが大切です。一人ひとりが進化を選択してください。

そんな中、二年が経過し折り返し点にきた吉田町長のもと、梶原町三月定例会が開催されました。令和2年度の予算84億6千100万円が可決され4月よりスタートとなります。

日々進化し続ける梶原人として、「変えなくてはいけないもの」「変えてはいけないもの」をしっかりと把握して、共に同じ目標を共有し一歩一歩力強く歩んでいきましょう。

西川慶男 記

市川岩亀 記